

大学・企業連携による ICT 導入・活用事例紹介

日時：9月4日（木）12:30～17:00 / 9月5日（金）10:00～17:30 会場：5F 廊下

ポスターセッション形式による、大学・企業共同の ICT 導入・活用事例の紹介です。ご自由にご覧下さい。

No	導入事例	大学	企業
1	学生個々人の主体的な学びを促進するための学習環境整備～学修空間のさまざまなカタチ	帝塚山大学	株式会社内田洋行
2	大阪体育大学における提出物の管理とその活用～ドキュメントスキャナーと「Grow One e ポートフォリオ」を使用して～	大阪体育大学	株式会社ニッセイコム
3	大学向け学修設計支援システム「UNIPROVE/LE」の導入と活用～学生カルテ・ポートフォリオ機能の融合で学生と教職員の学修設計を両面から支援～	日本大学商学部	株式会社日立製作所
4	授業支援システム「IT's class.」の導入から活用まで	学校法人文理佐藤学園 西武文理大学	株式会社日立公共システム
5	アクティブラーニング（Active Learning）の実現～新しい実学の形～	小樽商科大学	株式会社朝日ネット
6	映像コンテンツ制作のためのマルチメディアスタジオ	中央大学	電子システム株式会社
7	紙文書と授業支援システムの連携 ～授業支援ボックス～	法政大学	富士ゼロックス株式会社
8	近畿大学理工学部における入学前教育の学生指導への活用	近畿大学理工学部	株式会社ワオコーポレーション
9	大阪歯科大学における統合管理システムの導入と効果	大阪歯科大学	三谷商事株式会社
10	神奈川大学 dotCampus～全学導入により雑務の効率化	神奈川大学	インターレクト株式会社

●各大学と企業の配置 5F

窓（壕側）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
帝塚山大学	大阪体育大学	日本大学商学部	学校法人 文理佐藤学園 西武文理大学	小樽商科大学	中央大学	法政大学	近畿大学 理工学部	大阪歯科大学	神奈川大学
内田洋行	ニッセイコム	日立製作所	日立公共システム	朝日ネット	電子システム	富士ゼロックス	ワオコーポレー ション	三谷商事	インターレクト
← 受付、エレベータ			廊下						
			↓ (テーマ別自由討議/発表会場)						

●事例の概要紹介（討議・発表会場でのプレゼンテーション）スケジュール

テーマ別自由討議や発表会場にて、昼休憩の前に、各事例の概要紹介を行いますので、ぜひご覧下さい。

※都合によりスケジュールが変更になる場合があります。

9月4日（木）

	5F大雪	5F穂高
	分科会A	分科会B
12:30	朝日ネット	インターレクト
12:33	内田洋行	電子システム
12:36	日立製作所	日立公共システム
12:39	ワオコーポレーション	三谷商事

9月5日（金）

	5F 穂高東	5F 穂高西	5F 大雪東	5F 大雪西	6F 阿蘇西
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
12:10	朝日ネット		日立公共システム	電子システム	インターレクト
12:13	日立製作所				三谷商事
12:16	ワオコーポレーション				

●事例内容

No.1 学生個々人の主体的な学びを促進するための学習環境整備 ～学修空間のさまざまなカタチ

帝塚山大学／株式会社内田洋行

帝塚山大学は、「教育力が強い」、「学生への教育・支援がきめ細かい」、「地域と国際社会に開かれた」大学をモットーとし、各学部、学科でそれぞれの特色を活かした教育活動を展開しています。その内の「学生への教育・支援がきめ細かい」部分を具現化する一つとして、学生個々人の主体的な学びを促進するための学習環境を整備しています。これら一連の取組みについてご紹介いたします。

No.2 大阪体育大学における提出物の管理とその活用

～ドキュメントスキャナーと「Grow One e ポートフォリオ」を使用して～

大阪体育大学／株式会社ニッセイコム

大阪体育大学では、その他多くの大学・教育機関と同様に、学生の授業レポートやアンケートに大量の紙を用いています。しかし、その量ゆえに、その管理には非常に大きな労力が掛っていました。

この問題点を解決するため、同大学では高速ドキュメントスキャナーと「GrowOne e ポートフォリオ」を有機的に組み合わせたシステムを導入しました。これにより、紙資料の管理コストの削減以上の効果を得ることができました。

今回は、本システム導入までの経緯や導入後の運用、今後の活用計画などについてご紹介いたします。

（裏面に続く）

<主な導入効果>

- ・ 現行授業方法の維持
- ・ 提出物を回収・採点・返却する労力の削減
- ・ 提出物の紛失トラブル防止
- ・ 成績を管理する労力の削減

No. 3 大学向け学修設計支援システム「UNIPROVE/LE」の導入と活用

～学生カルテ・ポートフォリオ機能の融合で学生と教職員の学修設計を両面から支援～

日本大学商学部／株式会社日立製作所

日本大学商学部は、PDCAサイクルの考え方を導入して質の高い学びを継続することと、学生がキャリアについて早期から意識し「卒業後の自分の姿」を目標にすることを目的として2014（平成26）年4月に大学向け学修設計支援システム「UNIPROVE/LE」のポートフォリオの利用を開始しました。まずは1年生を対象とし、授業初回のガイダンスにてシステムの利用方法を全体へ周知させました。ガイダンス内で紙に目標を記入させることで目標を考える時間を与えるなど、ポートフォリオ活用のために工夫を凝らした運用をしています。

No. 4 授業支援システム「IT's class.」の導入から活用まで

学校法人文理佐藤学園 西武文理大学／株式会社日立公共システム

西武文理大学は1999（平成11）年に、サービスの原点である「ホスピタリティ」を経営や経済という視点で捉え、総合教育・キャリア教育や専門教育を行うサービス経営学部を擁する単科大学として開学しました。さらに2009（平成21）年には看護学部も開設しています。当初はコンピューターシステムの利用状況が芳しくなかったことから、教員が利便性を実感できるシステムの検討を行い、2002年に大学向け授業支援システム「IT's class.」の利用を開始しました。現在は、当初の目的であった教員の効率向上だけでなく、一人ひとりにあったきめ細やかな学習の提供や、学生の学習効率向上にも役立てています。

No. 5 アクティブラーニング（Active Learning）の実現 ～新しい実学の形～

小樽商科大学／株式会社朝日ネット

小樽商科大学は“実学実践”を教育理念としており、近年は学生が能動的に学ぶ授業改善とそれを支援する教育環境の構築を通じて「学生を徹底的に鍛えるしくみづくり」に取り組んでいます。アクティブラーニングとは、単なるICT機器を用いた授業に留まらず学生が自ら積極的に学び、そして、学んだことを実際に活用する能力を育てる教育活動といえます。教員と学生が双方向につながる授業を目指し、講義室では活発に意見が飛び交う、熱のある授業が日々繰り広げられています。

No. 6 映像コンテンツ制作のためのマルチメディアスタジオ

中央大学／電子システム株式会社

中央大学多摩ITセンターマルチメディアスタジオに、アクティブラーニングに活用するための映像コンテンツ作成環境を整備しました。主に、ミニスタジオ型収録ブースおよびHD画質に対応した撮影・編集機材を整備し、学生・教員・職員が様々なコンテンツを作成する場として、今後活用していく予定です。

No. 7 紙文書と授業支援システムの連携 ～授業支援ボックス～

法政大学／富士ゼロックス株式会社

法政大学情報メディア教育研究センターでは、富士ゼロックス（株）と共同で、授業で使う紙文書の電子化・処理効率化をする新しいシステムを開発し、今後全学で導入することを計画しております。添削した小テストあるいはレポートを各学生に授業支援システムを介して配布することができるようになります。教員が今まで事務作業に追われていた時間が減り、教員が教育および研究活動に割く時間の増加、小テストおよびレポート添削による教員と学生とのコミュニケーションが活発化するといった、学内の教育・研究の“質向上”のための活動に充てられることを期待しています。

No. 8 近畿大学理工学部における入学前教育の学生指導への活用

近畿大学理工学部／株式会社ワオコーポレーション

近畿大学理工学部では2006年度入学生より現在まで、早期入試合格者を対象に入学前教育をワオ・コーポレーションのeラーニングで実施しています。入学前教育開始時に実施する「事前テストスコア（基礎学力）」および期間終了後の「学習タイプ分析（学習習慣定着度）」と卒業時の成績情報を検証すると、入学前段階からの学習習慣の重要性が浮き彫りとなりました。

事前テストスコアが高くて学習習慣が定着できていない学生は、事前テストスコアが低いながらも学習習慣が定着できた学生に単位修得率が逆転されています。また、事前テストスコアが高い学生の退学率を比較すると、学習習慣が定着できなかった学生の方が高い退学率を示しています。入学前教育にeラーニングを活用することで、プレイメントテストの得点など基礎学力情報以外からも、重要な指導材料を得ることができます。

No. 9 大阪歯科大学における統合管理システムの導入と効果

大阪歯科大学／三谷商事株式会社

大阪歯科大学ではPC教室、メールシステム、LMS他各種サーバーの拡充に伴い、複数のアカウント/パスワードを統合を目指し統合管理システム「CampusUA」を導入しました。このシステムは滋賀大学様の監修を受け、大学様向けに作成した統合アカウント管理システムになっており大学様特有の業務にも対応できるようになっております。情報センター以外の各部署にも権限を与えることで、業務負担の軽減・業務の効率化を計ることが可能となった。今回実施の効果をご紹介します。

No. 10 神奈川大学 dotCampus ～全学導入により雑務の効率化

神奈川大学／インターレクト株式会社

神奈川大学では、多種類のシステム利用により作業が煩雑だったことから、学内のシステム統合を目指し、2009年4月から全学でdotCampusを導入しました。月間ユニークユーザー数は、導入初年度の4,000名から、現在では15,000名に増加し、携帯向けツールを含め多くの機能を積極的に活用しています。その結果、雑務の作業効率が大幅にアップし、教員は、本来必要な教育に多くの時間が使えるようになりました。